

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3670101611		
法人名	医療法人 青志会		
事業所名	ハートインライフ住吉		
所在地	徳島県徳島市住吉2丁目9番8号		
自己評価作成日	平成23年1月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.tokushakyo.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3670101611&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成23年2月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の要望や希望に耳を傾け、日ごろから実現に向け努めている。生活の中に笑い声が溢れるような雰囲気づくりを大切に、生き生きとした表情を見せていただけるよう支援している。職員は、利用者が家庭的で居心地良く、安心して生活ができるように取り組んでいる。また、利用者がいつまでもグループホームでの生活を継続できるように、職員の技術向上にも努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は住宅街に位置しており、同法人の通所介護事業所に隣接して建てられている。管理者は、新人や現任研修を計画的に実施している。また、職員一人ひとりの経験や力量等に応じた指導に努めている。職員は、担当する1~2名の利用者一人ひとりに寄り添って心身状況を把握するように努めている。利用者がやむを得ず重度化に至った場合には、利用者一人ひとりの意向に沿ってゼリー状の食品による経口摂取を行うなど、その人らしい生活の実現に向けた支援を行っている。全職員は、利用者の笑顔を大切にしたい関わりを努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念とは別に、事業所独自の理念「手と手のぬくもり溢れる笑顔」を掲げている。管理者や職員は、日ごろから法人の理念と事業所の理念を念頭に置いて、挨拶笑顔を忘れずに日々の業務に携わっている。	職員は、開設当初からの理念を共有している。日ごろから、利用者一人ひとりのケアのあり方を工夫して取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	散歩の際には挨拶を忘れないようにしている。秋祭りでは、近隣一軒一軒を回って声をかけたり、新年の挨拶や補修工事の際にも訪問している。地域の行事等に積極的に参加している。	運営推進会議等で地域の情報を得ている。また、事業所で行う行事等の案内を行って参加を促したり、近隣の保育所の子どもの来訪や近所付き合いを行う等、地域との相互交流を大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々を招き、認知症の理解を深めてもらえるように「認知症老人の家族の会」の代表者に講演をお願いしたことがある。また、外部機関にて認知症に関する講演を行った。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部評価や実地指導、公表制度等について、運営推進会議で報告を行い、委員より改善に向けての意見をもらっている。	運営推進会議では、利用者の状況や外部評価の結果、行政の実地指導等の結果を報告している。参加者と意見交換を行い、改善に向けて検討を行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月2回以上、代表者や管理者は、徳島市役所等を訪問し指導を受けている。また、必要に応じて、適時の指導や情報提供も受けている。閲覧時にも相談したり助言を受けている。	代表者や管理者は、定期的及び必要に応じて市担当窓口を訪問し、事業所の活動報告を行っている。また、訪問時には、事業所の運営やサービスに関する相談を行ったり指導を受けるなど連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束が及ぼす影響や人権の重要性について周知している。点滴中や転倒予防等、身体拘束をしないようにするにはどうすればよいのか常に考えてケアを行っている。玄関は施錠せず、チャイムも最小音にしている。	全職員は、身体拘束の具体的な行為や弊害について理解している。安全面に十分配慮したうえで、玄関を開錠し自由な暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフルームに、虐待防止に関する文書を掲示することで、常に職員が意識できるようにしている。言葉遣いや対応には十分配慮していくようにミーティング等で話し合いをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	認知症研修に順次参加したり、地域包括支援センターに相談しつつ支援に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書の説明については、時間をかけ十分に説明を行っている。状態変化による費用負担や対応についても、そのつど十分な説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は、利用者から不満や苦情を聞きだせるよう努めている。不満があるときは、時間をかけてゆっくりと話を聞き、日ごろの申し送り時等に、周知し解決できるようにしている。家族にアンケートを行い、出された意見等は運営推進会議で話し合っている。	事業所や外部の相談窓口について明示している。利用者や家族から希望や要望が出された際には、いつでも気軽に話し合えるよう、日ごろから信頼関係の構築に努めている。定期的に家族アンケートを実施し、出された意見等を運営面に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、日々の申し送り時に意見や提案ができる場面を設けている。また、その他の場面でも個別に意見や提案を聞くようにしている。運営者と管理者は、頻回に連絡をとって情報を共有している。	管理者は、毎日の申し送り時に職員から意見を聞いている。また、随時、職員一人ひとりの意見を把握して代表者と話し合い、運営に反映できるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員の努力に対し、常に「ありがとう」「がんばった」等感謝や激励の言葉をかけることで向上心を持てるよう、また、心身の変化にも留意し相談に応じている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、認知症介護実践研修を順次受講できるようにしている。実習生の受け入れを積極的に行っており、職員の意識向上にもつなげている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の他職員との相互交流や研修の機会を設けたり、他事業所との情報交換や相互訪問を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	1階ユニット		外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援							
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	まずは、本人が職員に対して安心感を抱けるように心がけている。また、本人だけでなく家族からも聞き取りを行い、希望や要望をなるべくかなえられるようにしている。主治医やケアマネジャーへの相談や情報を得ている。				
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談や見学の際、家族の困っていることや不安なことを聞くように努めている。その時点でお答えできることはその場でお答えするようにしている。また、主治医やケアマネジャーへの相談や情報を得ている。				
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状況をよく聞いたうえでどう対応するか検討している。満床等の理由により対応が困難な際には、他サービス事業所の紹介等を行っている。また、認知症の方への対応についてもアドバイスするようにしている。				
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者を一人の人間として受け入れている。本人の意向や望みを把握し、残された能力を発揮していただき、職員が学ぶ場面を大事にしている。畑仕事や調理等を助けてもらうこともあり、感謝の言葉をお伝えするようにしている。				
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	喜ばしいことは家族にもお伝えしている。利用者や家族、職員は、ともに喜びを分かち合っている。場合によっては、困りごと相談しながらともに支援していく心がけている。遠方の家族には、手紙に加えて電話での報告も行っている。				
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出の際には、利用者の自宅周辺に立ち寄り、お墓参りに出かけたり、昔の話を聞いたりして少しでも記憶に留められるようにしている。以前より行っていた基会所に、定期的に訪れている利用者もいる。	家族の協力のもと、お墓参りや基会所、お気に入りの商店への外出を支援している。家族や友人、知人等に、電話をかけたリ葉書を出す支援も行っており、馴染みの人や場所との関係が続けられるよう支援している。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の席順や、外出時の乗車順に留意し、会話が弾むよう心がけている。洗濯たたみなどの作業時にも利用者同士の関係性に留意しており、日常生活のさまざまな場面を通じて、馴染みの関係づくりや役割づくりができるように見守り等の支援を行っている。				

自己	外部	項目	自己評価	1階ユニット		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	やむを得ず退居に至った場合でも、定期的に電話等で連絡をとり、近況を把握するように努めている。また、家族にも連絡をとっており、時には事業所の行事にボランティアとして参加してもらうなど、継続的な関係性の維持・向上に努めている。				
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント							
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日ごろから、本人の立場に立って希望や意向を把握するように努めている。また、本人のみでなく家族にも意見を聞いている。	本人や家族の思いや意向等の把握がしやすいようにアセスメント表を工夫している。担当制を取り入れ、利用者一人ひとりの表情や発語からその人の気持ちを把握して支援している。			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	主治医やケアマネジャーから情報収集を行っている。他のサービスを利用していた場合には、なるべく情報を提供してもらえるように働きかけ、家族にも入居時だけでなく、継続して本人の生活歴についてお聞きしている。				
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は、一人ひとりの状況を観察・把握するように努めている。心身の状態については、夕方の申し送り周知したり、記録に残すようにしている。				
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は一人の職員のみで考えるのではなく、本人や家族、主治医の意見を十分に考慮してから、全職員で意見を出し合って作成している。	担当者と計画作成担当者は、1か月ごとにモニタリングを実施している。本人や家族、関係者の意見や要望等について担当者会議で検討している。定期的または状態変化時には、状況に応じた介護計画を作成している。			
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践を毎日記録し、その他の気づきや心身の状況を個別に記録に残している。日々、情報交換を行って共有を図っている。また、毎月や必要に応じて随時、職員による振り返りを行って介護計画に反映している。				
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の心身の状態に応じ、医療機関を受診したり、かかりつけ医への受診等を柔軟に対応している。併設のデイサービスや訪問リハビリも積極的に実施している。				

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的に、囲碁の相手として地域の婦人会の来訪がある。秋祭りでは、市内の演奏家の協力をいただいた。また、定期的に、消防署より防災についての指導をいただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の意向を踏まえて、かかりつけ医の受診を継続している。	本人や家族が希望するかかりつけ医の受診を支援している。家族との連携のもと、職員が付きそって適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員に相談しながら健康管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には頻回に訪問し、不安を軽減できるよう努めている。また、早期退院に向けて、退院後の注意点を関係者と話し合い、早期の退院や継続した受診ができるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状況に応じて、本人や家族、医師と話し合っている。事業所として何をすべきかについて検討し、職員間で方針や対応について周知している。	入居時には、困難なことも含めて事業所の方針を説明している。身体状況等の変化に応じて、医師の診断のもと関係者で話し合っている。また、職員間で家族の意向を共有し、その人らしく過ごせるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	医師や消防署より学習する機会を設けている。参加できなかった職員にも周知している。利用者一人ひとりの予測できる急変に対しては、家族や医師と話し合うこともある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に火災時の避難訓練を行っている。運営推進会議で議論され、避難場所の確認や避難時の問題点(周辺ブロック塀について等)等について意見があった。自治会主催の防災研修会にも参加している。	年2回、利用者とともに避難訓練を実施している。消防署員の指導も受け、災害対策の重要性を認識・共有して確認し合っている。運営推進会議や防災研修への参加を行うなど、地域との協力体制も構築している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に言葉かけに注意するよう努めている。記録にも敬う気持ちで記載している。本人の前だけでなく、会議等の場においても、尊敬の念をもって会話するよう周知している。	職員は、利用者一人ひとりの意向や持てる力等について考え、常に言葉かけ等に留意した対応を心がけている。職員は、利用者の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないようお互いに注意し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	能力に応じた言葉かけ(筆談、ゼスチャー、選択肢提示)や説明を行い、本人が納得したうえで行動ができるように支援している。強制することなく待つことを大切に信頼関係を深めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日ごろのレクリエーションなどにおいて、強制せずに意向を確認している。外出において、利用者の希望にすぐに対応できない場合もあるが、都合のつく時間をお伝えしたりして対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人自身で選択できる方には選んでもらっている。自分で選択することが困難な方にも、本人の趣味に合わせたおしゃれの支援を行っている。理・美容も希望に沿って対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	週1回の食事づくりでは、利用者に献立を聞いている。調理も一人ひとりの能力に応じて行っているが、食事の準備や片付けは、利用者の能力から職員が行っている。	職員は、利用者が簡単な食事の準備や調理等を行えるような場面を設けている。利用者の重度化に伴う食事形態の変化に対応しつつ、食事が楽しみなものとなるように留意している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量を記録に残し、定期的に体重を測定している。利用者一人ひとりの状況に合わせて、ゼリーやジュースを勧めており、十分な水分量を確保できるように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行っている。状況によりガーゼ等を使っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意の訴えがない方にも、パット交換だけにならないよう、定期的にトイレに座ってもらって、トイレでの排泄を促している。	時間帯により、紙パンツやパット類を使い分けている。トイレやポータブルトイレにさりげなく誘導し、気持ち良く排泄できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	十分な水分摂取や毎日の牛乳の摂取、体操等を行っている。排泄状況を記録し、便秘時には医師に相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者一人ひとりの希望に応じた入浴の支援を行っており、早い時間帯や夕方等にも入浴を楽しんでもらっている。また、しょうぶ湯やゆず湯等の季節感を感じてもらったり、併設のデイサービスの広い浴場で入浴することもある。	利用者一人ひとりの希望や体調に応じて入浴できるよう支援している。また、入浴剤を使用するなど、入浴が楽しみな時間となるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間は設けているが、一人ひとりの時間で休んでもらっている。どうしても眠れない時は、お茶やおやつ、話を聞く等、安心してもらえるようにしている。昼間でも、体調不良や眠そうな場合には、職員がさりげなく居室へ誘導して休んでもらう場合もある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局より提示される薬品の内容を把握し、正しく服薬できるように支援している。症状の変化については、受診の際に医師に伝達するようにしている。服薬時はテーブルに置いたりせず、服薬したかどうか一人ひとり確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	基会所への送迎や散歩、買い物等、個別に楽しみごとへの支援を行っている。洗濯たたみや掃除など日常生活においても得意なことができるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩を日課とされている方や基会所の協力を得て基会所への送迎を行っている。	利用者一人ひとりの希望や日課にそった外出の支援を行っている。また、各ユニットで季節の行事等を楽しめるように計画し実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	能力によっては、家族と話し合ったうえで、自分でお金を管理している。外出時に自分で支払えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	詰め所の電話を使っていたできるようにしており、家族への手紙を書くよう促している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下やホールには、随所に花を生けたり、行事の写真や利用者の作品を掲示している。テレビの音量や空調の温度の操作もこまめに行い、眩しくないよう採光にも配慮している。	玄関には季節の花の鉢植えを設置している。廊下には、利用者同士の人間関係に考慮したうえで、利用者の作品や行事の写真を飾っている。ホールでは、テレビ鑑賞やリハビリ体操、趣味の作業を楽しむなど、思い通りに過ごせるよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを移動したり、屋外にも椅子を置き、思い思いに過ごしてもらえるように支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	鏡台や囲碁の道具など、使い慣れたものを持ち込んでもらっている。利用者一人ひとりの生活や状態に合わせた居室空間となっている。	利用者一人ひとりの居室の入り口には、今年目標を掲示している。居室には、使い慣れた家具や好みの品を持ち込んでいる。位牌をお祭りしたり自作の和歌を壁に飾る方、好きな花を絶やさず届けてもらう方など、その人らしい雰囲気のある居室で居心地良く過ごせるように支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差の無い構造となっている。随所に手すりを設置し、テレビ等には転倒防止策を施している。心身の状態に合わせてベッドや家具を移動しており、安全で自立した生活が送れるように心がけている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	2階ユニット	自己評価	実践状況	自己評価	実践状況
			実践状況		実践状況		実践状況	
I.理念に基づく運営								
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念とは別に、事業所独自の理念「手と手のぬくもり溢れる笑顔」を掲げている。管理者や職員は、日ごろから法人の理念と事業所の理念を念頭に置いて、挨拶笑顔を忘れずに日々の業務に携わっている。					
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩の際には挨拶を忘れないようにしている。秋祭りでは、近隣一軒一軒を回って声をかけたり、新年の挨拶や補修工事などの際にも訪問している。地域の行事等に積極的に参加している。					
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々を招き、認知症の理解を深めてもらえるように「認知症老人の家族の会」の代表者に講演をお願いしたことがある。また、外部機関にて認知症に関する講演を行った。					
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部評価や実地指導、公表制度等について、運営推進会議で報告を行い、委員より改善に向けての意見をもらっている。					
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	月2回以上、代表者や管理者は、徳島市役所等を訪問し指導を受けている。また、必要に応じて、適時の指導や情報提供も受けている。閲覧時にも相談したり助言を受けている。					
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束が及ぼす影響や人権の重要性について周知している。点滴中や転倒予防等、身体拘束をしないようにするにはどうすればよいのか常に考えてケアを行っている。玄関は施錠せず、チャイムも最小音にしている。					
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフルームに、虐待防止に関する文書を掲示することで、常に職員が意識できるようにしている。言葉遣いや対応には十分配慮していくようにミーティング等で話し合いをしている。					

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2階ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	認知症研修に順次参加したり、地域包括支援センターに相談しつつ支援に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書の説明については、時間をかけ十分に説明を行っている。状態変化による費用負担や対応についても、そのつど十分な説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は、利用者から不満や苦情を聞きだせるよう努めている。不満があるときは、時間をかけてゆっくりと話を聞き、日ごろの申し送り時等に、周知し解決できるようにしている。家族にアンケートを行い、出された意見等は運営推進会議で話し合っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、日々の申し送り時に意見や提案ができる場面を設けている。また、その他の場面でも個別に意見や提案を聞くようにしている。運営者と管理者は、頻りに連絡をとって情報を共有している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員の努力に対し、常に「ありがとう」「がんばった」等感謝や激励の言葉をかけることで向上心を持てるよう、また、心身の変化にも留意し相談に応じている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、認知症介護実践研修を順次受講できるようにしている。実習生の受け入れを積極的に行っており、職員の意識向上にもつなげている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の他職員との相互交流や研修の機会を設けたり、他事業所との情報交換や相互訪問を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価 2階ユニット 実践状況	自己評価 実践状況	自己評価 実践状況
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	まずは、本人が職員に対して安心感を抱けるように心がけている。また、本人だけでなく家族からも聞き取りを行い、希望や要望をなるべくかなえられるようにしている。主治医やケアマネジャーへの相談や情報を得ている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談や見学の際、家族の困っていることや不安なことを聞くように努めている。その時点でお答えできることはその場でお答えするようにしている。また、主治医やケアマネジャーへの相談や情報を得ている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状況をよく聞いたうえでどう対応するか検討している。満床等の理由により対応が困難な際には、他サービス事業所の紹介等を行っている。また、認知症の方への対応についてもアドバイスするようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者を一人の人間として受け入れている。本人の意向や望みを把握し、残された能力を発揮していただき、職員が学ぶ場面を大事にしている。畑仕事や調理等を助けてもらうこともあり、感謝の言葉をお伝えするようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	喜ばしいことは家族にもお伝えしている。利用者や家族、職員は、ともに喜びを分かち合っている。場合によっては、困りごと相談しながらともに支援していくよう心がけている。遠方の家族には、手紙に加えて電話での報告も行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出の際には、利用者の自宅周辺に立ち寄り、お墓参りに出かけたり、昔の話を聞いたりして少しでも記憶に留められるようにしている。以前より行っていた基会所に、定期的に訪れている利用者もいる。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の席順や、外出時の乗車順に留意し、会話が弾むよう心がけている。洗濯たみなどの作業時にも利用者同士の関係性に留意しており、日常生活のさまざまな場面を通じて、馴染みの関係づくりや役割づくりができるように見守り等の支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2階ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	やむを得ず退居に至った場合でも、定期的に電話等で連絡をとり、近況を把握するように努めている。また、家族にも連絡をとっており、時には事業所の行事にボランティアとして参加してもらうなど、継続的な関係性の維持・向上に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日ごろから、本人の立場に立って希望や意向を把握するように努めている。また、本人のみでなく家族にも意見を聞いている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	主治医やケアマネジャーから情報収集を行っている。他のサービスを利用していた場合には、なるべく情報を提供してもらえよう働きかけ、家族にも入居時だけでなく、継続して本人の生活歴についてお聞きしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は、一人ひとりの状況を観察・把握するよう努めている。心身の状態については、夕方の申し送りで周知したり、記録に残すようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は一人の職員のみで考えるのではなく、本人や家族、主治医の意見を十分に考慮してから、全職員で意見を出し合って作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践を毎日記録し、その他の気づきや心身の状況を個別に記録に残している。日々、情報交換を行って共有を図っている。また、毎月や必要に応じて随時、職員による振り返りを行って介護計画に反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の心身の状態に応じ、医療機関を受診したり、かかりつけ医への受診等を柔軟に対応している。併設のデイサービスや訪問リハビリも積極的に実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2階ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的に、囲碁の相手として地域の婦人会の来訪がある。秋祭りでは、市内の演奏家の協力をいただいた。また、定期的に、消防署より防災についての指導をいただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の意向を踏まえて、かかりつけ医の受診を継続している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員に相談しながら健康管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には頻回に訪問し、不安を軽減できるよう努めている。また、早期退院に向けて、退院後の注意点を関係者と話し合い、早期の退院や継続した受診ができるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状況に応じて、本人や家族、医師と話し合っている。事業所として何をすべきかについて検討し、職員間で方針や対応について周知している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	医師や消防署より学習する機会を設けている。参加できなかった職員にも周知している。利用者一人ひとりの予測できる急変に対しては、家族や医師と話し合うこともある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に火災時の避難訓練を行っている。運営推進会議で議論され、避難場所の確認や避難時の問題点(周辺のブロック塀について等)等について意見があった。自治会主催の防災研修会にも参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2階ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に言葉かけに注意するよう努めている。記録にも敬う気持ちで記載している。本人の前だけでなく、会議等の場においても、尊敬の念をもって会話するよう周知している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	能力に応じた言葉かけ(筆談、ゼスチャー、選択肢提示)や説明を行い、本人が納得したうえでの行動ができるように支援している。強制することなく待つことを大切に信頼関係を深めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日ごろのレクリエーションなどにおいて、強制せず意向を確認している。外出において、利用者の希望にすぐに対応できない場合もあるが、都合のつく時間をお伝えしたりして対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人自身で選択できる方には選んでもらっている。自分で選択することが困難な方にも、本人の趣味に合わせたおしゃれの支援を行っている。理・美容も希望に沿って対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	週1回の食事づくりでは、利用者に献立を聞いている。調理も一人ひとりの能力に応じて行っている。日ごろの食事の準備や片付けも、利用者の能力に合わせて行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量を記録に残し、定期的に体重を測定している。利用者一人ひとりの生活リズムに合わせて、朝食の食事時間をずらすなどの対応を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行っている。状況によりガーゼ等を使っている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2階ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間帯によってパットの種類を変えたり、尿意の訴えがない方にも、パット交換だけにならないよう、定期的にトイレに座ってもらって、トイレでの排泄を促している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	十分な水分摂取や毎日の牛乳の摂取、体操等を行っている。排泄状況を記録し、便秘時には医師に相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者一人ひとりの希望に応じた入浴の支援を行っており、早い時間帯や夕方等にも入浴を楽しんでもらっている。また、しょうぶ湯やゆず湯等の季節感を感じてもらったり、併設のデイサービスの広い浴場で入浴することもある。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間は設けているが、一人ひとりの時間で休んでもらっている。どうしても眠れない時は、お茶やおやつ、話を聞く等、安心してもらえるようにしている。昼間でも、体調不良や眠そうな場合には、職員がさりげなく居室へ誘導して休んでもらう場合もある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局より提示される薬品の内容を把握し、正しく服薬できるように支援している。症状の変化については、受診の際に医師に伝達するようにしている。服薬時はテーブルに置いたりせず、服薬したかどうか一人ひとり確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩や買い物など、個別の楽しみごとへの支援を行っている。洗濯たたみや掃除など日常生活においても得意なことができるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には散歩に出かけるようにしている。家族と外出される方もいる。家族と外出される場合は、家族が困ることがないように注意することなどをお伝えしている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2階ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	能力によっては、家族と話し合ったうえで、自分でお金を管理している。外出時に自分で支払えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	詰め所の電話を使っていたできるようにしており、家族への手紙を書くよう促している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下やホールには、随所に花を生けたり、行事の写真や利用者の作品を掲示している。テレビの音量や空調の温度の操作もこまめに行い、眩しくないよう採光にも配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーを移動したり、屋外にも椅子を置き、思い思いに過ごしてもらえるように支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたミシンなど、なるべく使い慣れたものを持ち込んでもらっている。利用者一人ひとりの生活や状態に合わせた居室空間となっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差の無い構造となっている。随所に手すりを設置し、テレビ等には転倒防止策を施している。心身の状態に合わせてベッドや家具を移動しており、安全で自立した生活が送れるように心がけている。		